

### 今号の内容

◆白秋献詩入選者発表、白秋祭関連行事	2~3
◆市内最高齢者を表敬訪問、敬老会ほか	4
◆温水プール2階研修室貸出開始ほか	5
◆柳川駅自由通路の事前閲覧と公聴会ほか	6
◆11月のよかばんも～体験ほか	7
◆市民のひろば(8-9) ◆俳句(9) ◆情報わいど(10-13) ◆がんばったね・ぬくもり(14) ◆もちふみデビュー(14-15) ◆人権・同和教育シリーズ(16)	



## こっぽりー 柳川市民になりました

市民協働のまちづくり事業で昨年誕生した柳川市マスコットキャラクター「こっぽりー」に、9月28日、金子市長から特別住民票が手渡されました。元気な柳川を全国にPRしてほしいと特別住民に登録。こっぽりーの特別住民票は、柳川庁舎1階市民課で平日に無料で交付しています。

また、こっぽりーは現在開催中の「ゆるキャラグランプリ2012」にエントリー。同グランプリのホームページで11月16日まで投票することができます。ぜひ、こっぽりーを応援してください。

# 人権作文

市内の小中学生が書いた人権作文を紹介します。

## 言葉



柳城中学校 1年  
成清 美樹 さん

言葉には、人を幸せにする力があると思います。「ありがとう」「がんばって」「だいじょうぶ」これらの言葉は、人をあたたかい気持ちにさせてくれます。

私は中学校に入学したばかりのころ、友達がなかなかできませんでした。自分から話しかければよかったです。勇気が出なかったのです。だから、ほとんど同じ小学校の友達としかしゃべっていませんでした。そ

んなとき、他の小学校の子が、教室を移動するとき「いっしょに行こう」と誘ってくれました。すこくうれしくて、心がぼかばかになりました。このことがきっかけとなり、違う小学校の友達がどんどん増えました。そのとき私は、言葉は魔法だと思いました。たった一言で相手を幸せにしたり、助けたりできるからです。

しかし、使い方によっては刃物にもなります。「近づかんで」「気持ち悪い」何気なく言った言葉でも、相手を深く傷つけてしまいます。よく考えてみると、今まで気付かないうちに、たくさんの人を傷つけたのではないかと思います。私も小学校を卒業する直前に、友達に言われてとても悲しかった言葉があります。「同じ中学とか最悪」その言葉に深い意味はなかったのかも

しれないけれど、私にとっては、悲しかったし心がズキズキと痛むほどのものでした。私は、言葉は凶器だと思います。簡単に心を傷つけてしまうからです。体のけがよりも、ずっと痛くて苦しいものです。

しかし、言葉を正しく使えばその傷もあつという間に治ります。だからこそ、言葉は冗談半分で使つてはいけないと思います。相手を幸せにするあたたかい言葉ならいいけれど、「さわらんで」「けがれる」などは、冗談のつもりでも、言つてはいけません。言われた人は、本気にしてしまつからです。私は、言葉を正しく使つて、たくさんの人を幸せにしたいです。これからの中学校生活、楽しいことばかりではないでしょう。それでも、言葉の大切さを忘れずに生活していきたいと思います。

【評】 普段、何気なく使っている言葉について考えてくれました。友達の一言で、心がぼかばかしたこと。冗談のつもりの一言で、心がズキズキと痛んだこと。もしかしたら、誰にでも思い当たる経験なのではないでしょうか。美樹さんが呼びかけているように、言葉を刃物のように使うのではなく、相手を励ましたり勇気づけたりするように使えば、あたたかい雰囲気の教室ができることでしょう。

